

教科	数学	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標（小単元のねらい）	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
0章 算数から数学へ [整数の性質]	4	○素数の意味を理解する。 ○自然数を素因数分解することができる。 ○整数を2つの自然数の積に表した形から、倍数や約数の性質を見いだすことができる。	○素数の意味を理解している。 ○自然数が素数と素数ではない数に分けられることを理解している。 ○素因数分解の意味とその方法を理解している。 ○自然数を素因数分解することができる。	○整数を2つの自然数の積に表した形から、倍数や約数の性質を見いだすことができる。	○整数を2つの自然数の積の形に表すことに興味をもち、その結果からわかることはないか考えようとしている。 ○自然数を素因数分解することに興味をもち、いろいろな方法で素因数分解しようとしている。
1章 数の世界をひろげよう [正負の数]	25	○正負の数の必要性和意味を理解する。 ○正負の数を数直線上に表したり、絶対値をもとにして、正負の数の大小を考えその関係を不等号を使って表すことができる。 ○絶対値の意味を理解し、絶対値をもとにして正負の数の大小を考え、その関係を不等号を使って表すことができる。 ○正負の数の四則の計算ができる。 ○正負の数の四則の混じった計算ができる。 ○正負の数の分配法則を利用した計算ができる。 ○正負の数を利用して、身長の平均をくふうして求める方法を考え、説明することができる。	○正負の数の必要性和意味を具体的な場面と結び付けて理解している。 ○正負の数の大小関係や絶対値の意味を理解している。 ○正負の数の四則計算をすることができる。 ○具体的な場面で正負の数を用いて表したり処理したりすることができる。	○算数で学習した数の四則計算と関連づけて、正負の数の四則計算の方法を考察し表現することができる。 ○数の集合と四則計算の可能性について捉え直すことができる。 ○正負の数を活用して様々な事象における変化や状況を考察し表現することができる。	○正負の数の必要性和意味を考えようとしている。 ○正負の数について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○正負の数を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
2章 数学のことばを身につけよう [文字と式]	19	○身のまわりの問題を、具体的な数の計算をもとに考え、文字を用いて一般的に表す必要性を理解する。 ○単項式と多項式、次数、同類項の意味を理解し、同類項をまとめる計算や、多項式の加法や減法の計算ができる。 ○多項式の計算ができる。 ○単項式どうしの乗法と除法の計算ができる。また、式の値をくふうして求めることができる。 ○数の性質が成り立つことを、文字を使って説明することができる。 ○目的に応じて等式を変形することの必要性を理解し、等式を変形して、ある文字について解くことができる。	○簡単な整式の加法と減法及び単項式の乗法と除法の計算をすることができる。 ○具体的な事象の中の数量の関係を文字を使った式で表したり、式の意味を読み取ったりすることができる。 ○文字を使った式で数量及び数量の関係を捉え説明できることを理解している。 ○目的に応じて、簡単な式を変形することができる。	○具体的な数の計算や既に学習した計算の方法と関連付けて、整式の加法と減法及び単項式の乗法と除法の計算の方法を考察し表現することができる。 ○文字を使った式を活用して具体的な場面を考察し表現することができる。	○文字を使った式の必要性和意味を考えようとしている。 ○文字を使った式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○文字を使った式を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
3章 未知の数の求め方を考えよう [方程式]	15	○2元1次方程式とその解の意味、連立方程式とその解の意味を理解する。 ○加減法と代入法を理解し、それらを用いて連立方程式を解くことができる。 ○かっこをふくむ連立方程式や、係数に小数や分数をふくむ連立方程式を解くことができる。 ○ $A=B=C$ の形をした連立方程式を解くことができる。 ○個数と代金、速さ・時間・道のり、割合に関する問題を、連立方程式を利用して解決することができる。	○2元1次方程式とその解の意味を理解している。 ○連立2元1次方程式の必要性和意味及びその解の意味を理解している。 ○簡単な連立2元1次方程式を解くことができる。	○1元1次方程式と関連付けて、連立2元1次方程式を解く方法を考察し表現することができる。 ○連立2元1次方程式を活用して具体的な場面を考察し表現することができる。	○連立2元1次方程式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○連立2元1次方程式を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。

教科	数学	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4章 数量の関係を調べて問題を解決しよう [比例と反比例]	23	○1次関数の意味を理解し、 $y=ax+b$ の式に表すことができる。 ○1次関数のグラフは、その式をみたす点の集合で、1つの直線であることを理解する。また、1次関数のグラフの切片の意味を理解する。 ○1次関数のグラフを、切片と傾きをもとにかくことができる。 ○グラフの傾きと切片を読み取って、1次関数の式を求めることができる。 ○グラフの傾きと通る1点または2点から、1次関数の式を求めることができる。 ○2元1次方程式のグラフをかくことができる。また、2元1次方程式 $ax+by=c$ で、 $a=0$ や $b=0$ の場合のグラフの特徴を理解し、グラフをかくことができる。 ○連立方程式の解が、2つの2元1次方程式のグラフの交点の座標であることを理解し、連立方程式の解をグラフをかくて求めたり、2直線の交点の座標を連立方程式を解いて求めたりすることができる。 ○具体的な事象の中の2つの数量の間の関係を1次関数とみなして、そのグラフを利用して問題を解決することができる。 ○図形の辺上を動く点によってできる図形の面積の変化を、1次関数の式やグラフで表すことができる。	○1次関数について理解している。 ○事象の中には1次関数として捉えられるものがあることを知っている。 ○2元1次方程式を関数を表す式とみることができる。 ○1次関数の変化の割合やグラフの切片と傾きの意味を理解している。 ○1次関数の関係を表、式、グラフを用いて表現したり、処理したりすることができる。	○1次関数として捉えられる2つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現することができる。 ○1次関数を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる。	○1次関数の必要性和意味を考えようとしている。 ○1次関数について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○1次関数を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている
5章 平面図形の見方をひろげよう [平面図形]	18	○様々な移動の意味とその性質を理解する。 ○2つの合同な図形の関係を移動の見方で捉え、説明することができる。 ○作図における定規とコンパスの役割と使い方を理解し、簡単な作図ができる。 ○垂線、垂直二等分線、角の二等分線を作図する方法を理解し、作図することができる。 ○基本的な作図を利用して、円の接線やいろいろな条件をみたす図形を作図することができる。 ○おうぎ形の弧の長さや面積を求めることができる。	○平行移動、対称移動及び回転移動について理解している。 ○平面図形に関する用語や記号の意味と使い方を理解している。 ○角の二等分線、線分の垂直二等分線、垂線などの基本的な作図の方法を理解している。 ○おうぎ形の弧の長さと面積を求めることができる	○図形の移動に着目し、2つの合同な図形の関係について考察し表現することができる。 ○線対称な図形の性質をもとにして、基本的な作図の方法を考察し表現することができる。 ○図形の移動や基本的な作図を具体的な場面で活用することができる。	○平面図形の性質や関係を捉えることの必要性和意味を考えようとしている。 ○平面図形について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○図形の移動や基本的な作図を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている
6章 立体の見方をひろげよう [空間図形]	19	○身のまわりにあるものから立体を見だし、それらの立体をいろいろな見方で分類することができる。 ○多面体の意味を理解する。また、角錐や円錐の意味とそれらの特徴を理解する。 ○正多面体の意味とその特徴を理解する。 ○空間内にある平面と平面、平面と直線、直線と直線の位置関係を理解する。 ○角柱や円柱、円錐、球などを、平面図形の移動によってできた立体とみることができる。 ○角柱、円柱、角錐、円錐の展開図とその特徴を理解する。 ○投影図の意味を理解する。 ○角柱や円柱の体積の求め方を理解し、それらを求めることができる。 ○角柱や円柱、円錐の表面積の求め方を理解し、それらを求めることができる。 球の体積や表面積の求め方を理解し、それらを求めることができる。	○空間における直線や平面の位置関係を理解している。 ○立体図形の展開図や投影図について理解している。 ○柱体や錐体、球の表面積と体積を求めることができる。	○空間図形を直線や平面図形の運動によって構成されるものと捉えることができる。 ○空間図形を平面上に表現して平面上の表現から空間図形の性質を見いだすことができる。	○立体図形の表面積や体積の求め方を考察し表現することができる。 ・空間図形の性質や関係を捉えることの必要性和意味を考えようとしている。 ○空間図形について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。

令和5年度 評価規準

学校名：江戸川区立二之江中学校

教科	数学	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
7章 データを活用して判断しよう [データの分析と活用]	11	○既習のデータの整理や分析の方法を、問題解決に生かそうとしている。 ○データを度数分布表やヒストグラムに表し、分布の特徴を読み取り、説明することができる。 ○相対度数の必要性和意味を理解する。 代表値や範囲を用いてデータの分布の傾向を読み取り、説明することができる。 ○目的に応じてデータを収集して分析し、そのデータの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断することができる。 ○不確定な事象の起こりやすさを、その事象の起こる割合や試行の回数に着目して考え、説明することができる。 ○多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性和意味を理解する。 ○多数の観察や多数回の試行の結果をもとにして、不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取り、説明することができる。	○ヒストグラムや相対度数などの必要性和意味を理解している。 ○累積度数、累積相対度数の必要性和意味を理解している。 ○代表値や範囲の必要性和意味を理解している。 ○コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータを表やグラフに整理することができる。 ○多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性和意味を理解している。	○目的に応じてデータを収集して分析し、そのデータの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断することができる。 ○多数の観察や多数回の試行の結果をもとにして、不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取り表現することができる。	○ヒストグラムや相対度数の必要性和意味を考えようとしている。 ○ヒストグラムや相対度数について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○ヒストグラムや相対度数を活用した問題解決の過程を振り返って検討したり、多面的に捉え考えようとしていたりしている。 ○多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性和意味を考えようとしている。 ○多数の観察や多数回の試行によって得られる確率について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。
予備時間	6				